

授業科目(ナンバリング)	社会保障論 B (DA307)			担当教員	脇野 幸太郎		
展開方法	講義	単位数	2 単位	開講年次・時期	3 年・前期	必修・選択	選択
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
社会保障論 B では、2 年後期の社会保障論 A に引き続き、社会保険の諸制度（年金、医療保険、雇用保険、労災保険）を中心に、その概要を理解すること、およびその制度理解をソーシャルワークの実践に活用できる能力を身に着けることを目標とする。							①②③⑨
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会保険の諸制度（年金、医療保険、雇用保険、労災保険）の概要を説明できる。</li> <li>どのような場合にどの社会保障の制度から、どのような給付が受けられるか説明できる。</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>定期試験 (50%)</li> <li>小テスト (10%)</li> </ul>	60%	
情報収集、分析力	<ul style="list-style-type: none"> <li>理解したことを、ソーシャルワークの実践に活用できる。</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>定期試験 (25%)</li> <li>出席カードのコメント (5%)</li> </ul>	30%	
コミュニケーション力							
協働・課題解決力							
多様性理解力	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分自身の生活と社会保障のかかわりについて認識できる。</li> <li>社会福祉専門職として、社会保障制度理解の必要性について認識できる。</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>定期試験 (5%)</li> <li>出席カードのコメント (5%)</li> </ul>	10%	
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
定期試験（穴埋め式と筆記式を併用）のほか、6 回目と 11 回目に 15 分程度の小テストを実施する（小テストは、その場で採点を行い、復習を兼ねた解説を行う）。また、毎回、出席カードのコメント欄に当日の授業内容についてのコメントを求める。これらを総合的に勘案し、上記到達目標についての評価を行う。評価基準は上記のとおりである。							
授業の概要							
<p>授業は、指定テキストと毎回配布するレジュメを併用して行う。</p> <p>社会保障論は社会福祉士・精神保健福祉士資格受験科目の一つであるが、例年、受験者の中にはこの科目に苦手意識を感じる者が多いようである。その原因としては、範囲が広いことに加え、各制度のしくみが複雑で難解であることが考えられる。授業ではこのような点に配慮し、具体的な例を用いながらできるだけわかりやすく説明を行うとともに、資格取得のための学習についても随時アドバイスを行いたい。</p> <p>この授業の標準的な 1 コマあたりの授業外学修時間は、180 分とする。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：古橋エツ子編『新・初めての社会保障（第 2 版）』法律文化社・2016</p> <p>参考書：社会福祉士養成講座編集委員会編『新社会福祉士養成講座 第 12 巻 社会保障 第 5 版』中央法規・2016</p> <p>指定図書：教科書と同じ。</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<ul style="list-style-type: none"> <li>3 年前期の社会保障論 B は、2 年後期の社会保障論 A と内容的にセットになっているので、<b>A と B は両方を必ず履修すること。</b></li> <li>授業外学修として、予習では、教科書の次回扱う部分を読んでおくこと、復習では、その日扱った内容をレジュメと教科書を突き合わせて確認し、その内容を説明できるようにしておくこと。復習に活用できるよう、配布したレジュメのデータは、授業後にポートフォリオにアップする。</li> <li>授業では、わからないことはそのままにせず、授業前後、オフィスアワーなどに遠慮なく質問してほしい。</li> </ul>							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	年金 ① はじめに	20 歳になったらなぜ学生でも国民年金に加入しなければならないのだろうか？この問題を通じて、年金制度とはどのような制度なのかについて全体像を理解する。	予習：教科書第5章 復習：なぜ「20 歳になったら国民年金」なのか説明できるように復習。
2	年金 ② 被保険者と保険料	どの職業の人がどの制度に加入し、どのようなルールで保険料を負担するかについて理解する。	予習：教科書第5章 復習：年金保険料の負担のルールについて復習。
3	年金 ③ 年金給付	老齢年金がいつから、どのくらい受給できるのかについて、具体例を通じて理解する。	予習：教科書第5章 復習：老齢年金の概要について復習。
4	年金 ④ 年金給付（つづき）	年金給付には、老齢年金だけでなく、若年者でも受給できる「障害年金」や「遺族年金」もある。これらの受給要件や受給額について理解する。	予習：教科書第5章 復習：障害年金、遺族年金の概要について復習。
5	年金 ⑤ 年金の財政方式	年金の財政方式としての「積立方式」と「賦課方式」について理解する。	予習：教科書第5章 復習：積立方式と賦課方式について復習。
6	年金 ⑥ 年金のまとめ	年金制度についてのまとめを行う。 今後の年金制度のあり方について考える。 1 回目～6 回目の内容に関する小テストを実施する。	予習：小テストに向け、年金全体の復習。 復習：小テストの復習。
7	医療保障 ① はじめに	まず最初に、自分の持っている健康保険証を見て、保険証とは何のためのものなのか、自分がどの医療保険制度に加入しているのか、病気のときの患者負担、などについて確認しながら、医療保険制度について考えてみる。	予習・復習：自分の健康保険証をみて、加入している医療保険を確認。
8	医療保障 ② 保険者と被保険者、保険料	誰がどのようなルールでどの医療保険制度に加入し、保険料を納めるのかについて理解する。	予習：教科書第6章 復習：医療保険の保険者、被保険者、保険料。
9	医療保障 ③ 保険給付	病気やけがをしたら、医療保険からどのような医療サービスが受けられるのかについて理解する。また、患者の一部自己負担や高額療養費制度、差額負担などについても理解する。	予習：教科書第6章 復習：医療保険の給付内容について復習。
10	医療保障 ④ 高齢者のための医療制度	高齢者のための医療制度について、後期高齢者医療制度を中心に理解する。	・後期高齢者医療制度の概要について復習。 ・次回の小テストに向けた復習。
11	医療保障 ⑤ 国民医療費・医療提供体制	わが国で1年間にどれだけの医療費がどのような分野に使われているのかを確認すると同時に、わが国の医療提供体制について理解する。 7 回目から 11 回目の内容に関する小テストを実施。	・小テストの復習 ・日本の医療提供体制の概要について説明できるようにしておく。
12	労働保険 ① 雇用保険	雇用保険制度の意義、目的および内容について、現在のわが国の雇用情勢と関連づけながら理解する。	予習：教科書第8章 復習：雇用保険制度の概要について復習。
13	労働保険 ② 雇用保険（つづき）	雇用保険の給付プロセスと、その現状について理解する。	予習：教科書第8章 復習：雇用保険の給付を受ける場合の利用手続きの流れについて復習。
14	労働保険 ③ 労災保険	労働者災害補償保険（労災保険）制度の意義、目的、および内容について、現在のわが国の労働災害、職業病の現状と関連づけながら理解する。	予習：教科書第8章 復習：労働災害の意味について復習。
15	社会福祉・社会手当の諸制度	社会福祉・社会手当の諸制度について、概要を把握する。	予習：教科書第9章 復習：社会手当の諸制度について復習。
16	定期試験		